

熊本地震！(壁や柱の直下率がポイント)

4/14 夜、熊本地方を震度 7 (M6.3) の地震が襲いました。甚大な被害が出て、余震で片付けが進まない中、16 日未明、再度震度 7 (M7.3) の本震が襲いました。その後も余震が続き、被災された方々は不安な日々を過ごされています。心よりお見舞い申し上げます。自衛隊や消防隊、警察、医療関係、行政等とともにボランティアも入り復興に向け頑張っておられますが、建築士による住宅倒壊の原因調査も行われています。これまでに報道された記事を元に住宅の耐震性についてまとめて見ました。

- * 新耐震基準を満たした新しい住宅は外観上の被害は少ない。
- * 全面開口や連続した開口など壁の配置バランスが悪い住宅は被害が大きい。
- * 土葺き瓦屋根は上部が重く、振幅を大きくなり、倒壊の原因となった。
- * ホルダリンや柱頭柱脚金物等、建築基準法を遵守していない建物は被害が大きい。
- * 盛り土側は被害が大きく、切り土側は小さい。軟弱地盤等、建築前の地盤調査と地盤改良が大事。
- * S 造や RC 造の建物でも旧基準のものは壊れたり、被害が大きい。

現場を調査した構造設計会社の話として「N 値計算や偏芯率、四分割法でも安全は確認できる。4 号建築物の仕様規定を守っている木造住宅は壊れていない。土質の影響も大きい。耐震性能と地盤の重要性を再認識した」と日刊木材新聞に掲載されていた。

当社では 4 月末、N 値計算や壁量計算のできるソフトを導入いたしました。御要望に応じプレカット最終図面確定後の N 値や壁量(重心と剛芯の偏芯率)を有料で計算いたします。当社の算出した資料の前提条件をご確認いただき、設計士様の確認印があれば確認申請資料として御利用いただけます。(設計士様の印が無ければ参考資料ということになります)

【情報】

製品価格が不透明です

熊本の地震の影響で今後の木材需給に不安が広がっています。特に野地板や母屋角、土台角が品薄状態です。今後復旧需要が出てくると合板の不足から価格上昇の懸念があります。現状は価格・量ともに横ばい状態です。

【定休日】

5 月は 1, 2, 3, 4, 5, 8, 15, 21, 22, 29 日となります

6 月は 4, 5, 11, 12, 18, 19, 25, 26 日となります

宜しく申し上げます。



熊本市国道 3 号線沿いの RC 建物